



復興大学

～災害ボランティアステーション～

2020_[R2]年度 活動報告

本事業は、宮城県「復興大学支援事業補助金事業」の助成を受けて実施しております。

発行日：2021.3.31

発行：尚綱学院大学 交流推進部

宮城県名取市ゆりが丘 4-10-1

TEL/022-381-3315（大学事務室 連携交流課） TEL/022-381-3484（ボランティアステーション）

1 事業成果概要

本事業は、宮城の創造的復興を担う人材を育成する事業の一環として、学生ボランティアを持続可能な社会資源として高めていくこととし、主に以下の二つの取り組みを推進した。

- (1) 東日本大震災から10年目を迎え、被災地の住環境の変化に伴う「コミュニティ再生」や被災者の自立を妨げない支援のあり方が継続した課題となっている。令和元年度までの取り組みに引き続き、宮城県内を始めとする全国の学生ボランティアが被災地に関わり続けるきっかけや意欲を醸成するなど、復興支援に取り組む人材育成に取り組んできた。残念ながら令和2年度はコロナ禍にあり、被災地での直接的な支援活動の実施が困難な状況であったが、遠隔でできる取り組みなど様々な創意工夫を凝らし、活動を継続した。宮城県内において復興ボランティアに関わる人数として、のべ395名（2021.3.31現在）が参加した。
- (2) 主に宮城県名取市内での学生ボランティア活動を行うとともに、大学間連携ボランティアネットワークを礎に、県内外の学生が共に宮城の震災復興にかかわり、共に学ぶ機会を提供する。震災当時に小学生だった大学生が「あの日あの時の学び直し」を行い、「大学生に今できることは何か」を考え、「次の災害に備える」ための心構えやスキルを身につけることに取り組んできた。(1)同様、コロナ禍において直接的な学生間交流は叶わなかったが、オンラインの活用を通じ、これまでに連携してきた「大学コンソーシアムひょうご神戸」との共催で「大学間連携 オンライン合同ボランティア学習会」を定期的に実施。のべ102名（2021.3.31現在）の兵庫県の大学生も本事業に参加し、より深く災害や復興について意見交換を行った。また動画やオンライン配信を活用した伝承活動、シンポジウムの実施を通して、コロナ禍でも学びを止めずに取り組みを継続させた。

2 主な事業内容

- (1) 災害復興ボランティア活動（通年）
年間を通しての県内におけるボランティア活動で、学都仙台コンソーシアム加盟大学学生間の協働ボランティア活動。直接的な訪問ができない代わりに、名取市閑上地区の復興公営住宅や町内に住む住民に向けて学生のメッセージを発信する「お手紙プロジェクト」を実施し、交流の継続に努めた。（活動地域：名取市閑上地区）
- (2) ボランティア学習会「閑上バスツアー学習会」（10月～11月）
大学生が被災地を直接訪問し、東日本大震災のあの日あの時何があったかを知り、「被災地の今」を学ぶことで今後の支援活動について考えた。（活動地域：名取市閑上地区）
- (3) 大学間連携オンライン合同ボランティア学習会（通年）／共催：大学コンソーシアムひょうご神戸
兵庫県の大学生とオンライン合同学習会を実施し、共に「被災地の今」や阪神淡路大震災などの「過去の災害」について学び、コロナ禍における支援活動やこれからの被災地支援のあり方について考えた。
- (4) 動画を活用した被災地伝承活動「バーチャル閑上バスツアー」
被災地を直接訪問できない大学生やコロナ禍においても伝承活動を行うためのツールとして、バーチャル被災地ツアー動画を作成し公開した。（案内場所：名取市閑上地区）
- (5) 「つづける・つなげる・つたえる311プロジェクト」（2021年1月～）
震災から10年目に合わせたリレートークシンポジウム、展示、WEB広報を実施。

4月		・バーチャル被災地バスツアー動画作成
5月		・バーチャル被災地バスツアー動画作成 ・お手紙プロジェクト①「大学生の近況報告と閑上まちびらきイベントの思い出」／250部配布
6月	25(木)	・バーチャル被災地バスツアー動画作成 ・大学間連携 オンライン合同ボランティア学習会事前研修 ／参加者17名（内、尚絅2名、大学コンソーシアムひょうご神戸8名ほか）
7月	23(木)	・大学間連携 オンライン合同ボランティア学習会事前研修 ／参加者17名（内、尚絅2名、大学コンソーシアムひょうご神戸8名ほか） ・バーチャル被災地バスツアー動画 4本公開開始
8月	10(月) 29(土)～30(日)	・大学間連携 オンライン合同ボランティア学習会事前研修 ／参加者19名（内、尚絅4名、大学コンソーシアムひょうご神戸8名ほか） ・大学間連携 オンライン合同ボランティア学習会 ／参加者のべ48名（内、尚絅のべ6名、大学コンソーシアムひょうご神戸のべ15名ほか）
9月	8(火) 15(火) 24(木)	・大学間連携 オンライン合同ボランティア学習会事後研修 ／参加者18名（内、尚絅3名、大学コンソーシアムひょうご神戸8名ほか） ・JVCA主催リスクマネジメント研修／参加者3名 ※オンライン ・JVCA主催ファシリテーション基礎研修／参加者4名 ※オンライン
10月	1(木) 4(日)	・JVCA主催オンラインファシリテーション研修／参加者2名 ※オンライン ・閑上バスツアー学習会（1）／参加者7名
11月	1(日) 22(日)	・閑上バスツアー学習会（2）／参加者17名 ・閑上バスツアー学習会（3）／参加者20名 ・お手紙プロジェクト②「名取復興文化祭2020開催に寄せてお祝いメッセージ」／100部配布 ※名取復興文化祭2020：11/7（土）開催（主催：名取市サポートセンターどっと.なとり【JOCA】）
12月	2(水) 13(日) 14(月) 20(日)	・大学間連携 オンライン合同ボランティア学習会 ／参加者23名（内、尚絅9名、大学コンソーシアムひょうご神戸6名ほか） ・大学間連携 オンライン合同ボランティア学習会 ／参加者13名（内、尚絅5名、大学コンソーシアムひょうご神戸5名ほか） ・JVCA主催対話を通じた問題解決セミナー／参加者1名 ※オンライン ・大学間連携 オンライン合同ボランティア学習会 ／参加者15名（内、尚絅9名、大学コンソーシアムひょうご神戸4名ほか） ・お手紙プロジェクト③「クリスマスカード」（大学コンソーシアムひょうご神戸と合同作成）／400部配布
1月	15(金) 25(月)～2/12(金)	・阪神淡路大震災に関するオンラインボランティア学習会／参加者10名 ・企画展示「10年のTASKIリレー展」実施／場所：ボランティアステーション前
2月	26(金)～3/31(水)	・仙台防災未来フォーラム2021発表動画撮影 ／参加者21名（内、尚絅12名、大学コンソーシアムひょうご神戸9名） ・企画展示（WEB）「10年のTASKIリレー展」大学ホームページにて特設ページ展開
3月	3(水)～3/31(水) 6(土) 7(日) 9(火) 15(月)	・企画展示「10年のTASKIリレー展」実施／場所：地域連携交流プラザ ・オンラインリレートークイベント「10年のTASKIリレー」実施／参加者16名 ・仙台防災未来フォーラム2021 展示・動画発表出展 ・閑上中央集会所オンライン茶話会／参加者16名（内、尚絅4名、大学コンソーシアムひょうご神戸8名ほか）／共催：大学コンソーシアムひょうご神戸、どっと.なとり、閑上中央町内会 ・閑上バスツアー学習会／参加者13名（→オンラインに変更）
その他 オンライン実施		・JVCA主催ボランティアコーディネーション 基礎研修 10月～1月 ボランティアコーディネートを学ぶ 2講座／受講者のべ26名
【予定していたが新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった事業】 ・大学間連携災害復興ボランティア活動（名取市閑上地区での直接的な活動と他大学の受入中止。遠隔での実施に変更） ・神戸ボランティア学習プログラム（中止。遠隔での学生間交流に変更）		

令和2年度 復興大学事業 参加人数 (R2.4～R3.3)

日程	事業内容	事業数	参加人数			
			合計	尚綱	他大学	その他
R2.5	お手紙プロジェクト①「大学生の近況報告と関上まちびらきイベントの思い出」	1	7	7	0	0
R2.11	お手紙プロジェクト②「名取復興文化祭2020開催に寄せてお祝いメッセージ」	1	4	4	0	0
R2.12	お手紙プロジェクト③「クリスマスカード」	1	15	9	4	2
R3.3.9	オンラインお茶会「絵灯籠づくり」	1	16	4	8	4
	支援活動等 小計(a)	4	42	24	12	6
R3.2.20	震災満10年を考える講演会 主催:敬愛大学(千葉県)(活動発表※オンライン)	1	3	3	0	0
R3.3.6	リレートーク「10年のTASKIリレー」 主催:尚綱学院大学	1	38	27	9	2
R3.3.7	仙台防災未来フォーラム(オンライン活動発表・ポスター展示)	1	19	10	9	0
	支援活動等 小計(b)	3	60	40	18	2
R2.5	バーチャル関上バスツアー動画作成①	1	5	3	0	2
R2.6	バーチャル関上バスツアー動画作成②	1	5	3	0	2
R2.7	バーチャル関上バスツアー動画作成③	1	5	3	0	2
R2.7	バーチャル関上バスツアー動画作成④ダイジェスト版	1	5	3	0	2
R2.10.4	関上バスツアー学習会(1)(関上現地踏査)	1	7	4	0	3
R2.11.1	関上バスツアー学習会(2)(関上現地踏査)	1	17	15	0	2
R2.11.22	関上バスツアー学習会(3)(関上現地踏査)	1	20	18	0	2
R3.3.15	関上バスツアー学習会(4)(関上現地踏査)	1	13	13	0	0
現地での学習会	学習会(宮城県・受入) 小計(c)	8	77	62	0	15
R2.6.25	大学間連携 オンライン合同ボランティア学習会事前研修	1	17	2	8	7
R2.7.23	大学間連携 オンライン合同ボランティア学習会事前研修	1	17	2	8	7
R2.8.10	大学間連携 オンライン合同ボランティア学習会事前研修	1	19	4	8	7
R2.8.29	大学間連携 オンライン合同ボランティア学習会(1日目)	1	23	3	12	8
R2.8.30	大学間連携 オンライン合同ボランティア学習会(2日目)	1	25	3	13	9
R2.9.8	大学間連携 オンライン合同ボランティア学習会事後研修	1	18	3	8	7
R2.12.2	大学間連携 オンライン合同ボランティア学習会	1	23	9	6	8
R2.12.13	大学間連携 オンライン合同ボランティア学習会	1	13	5	5	3
R2.12.20	大学間連携 オンライン合同ボランティア学習会	1	15	9	4	2
R3.1.15	オンラインボランティア学習会(阪神淡路大震災)	1	10	10	0	0
オンラインでの学習会・研修	学習会(オンライン) 小計(d)	10	180	50	72	58
R2.9.15	JVCA主催リスクマネジメント研修	1	3	1	0	2
R2.9.24	JVCA主催ファシリテーション基礎研修	1	4	2	0	2
R2.10.1	JVCA主催オンラインファシリテーション研修	1	2	1	0	1
R2.12.14	JVCA主催対話を通じた問題解決セミナー	1	1	1	0	0
R2.10～R3.1	JVCA主催ボランティアコーディネートを学ぶ①	1	13	12	0	1
R2.10～R3.1	JVCA主催ボランティアコーディネートを学ぶ②	1	13	12	0	1
他団体主催研修	他団体主催によるオンライン研修(オンライン) 小計(e)	6	36	29	0	7
	合 計 (a + b + c + d + e)	31	395	205	102	88

事業報告

事業名	大学間連携 オンライン合同ボランティア学習会 「被災地への支援のあり方を考える ～コロナ禍で私たちができることとは～」
実施期間	合同事前学習会(オンライン実施):①6月25日(木) ②7月23日(木) ③8月10日(月) 本活動:8月29日(土)～30日(月)
実施場所	オンライン実施
主催(共催)	大学コンソーシアムひょうご神戸(学生災害ボランティアネットワーク事業) 尚綱学院大学
目的	東日本大震災や阪神淡路大震災など過去の災害について学び直し、最近の災害からコロナ禍におけるボランティア活動のあり方について知る。学生間意見交流を通し、大学生に求められる支援のあり方と、今後起こり得る災害や被災地への関わりを考える。特にまだ現地での活動・移動を伴う交流ができない環境下ではあるが、「今、わたしたちに何ができるか」、「これからの災害にどのように備えるか」、「東日本大震災より10年目が目前に迫る中、復興についてどのように考えるか」など、全国の大学生と合同で意見交換を行うことで、それぞれ自分が住む地域の課題や次に起こる災害後のまちづくりを考える。
内容	【合同事前学習会】 ■1回目 日 時:2020年6月25日(木) 内 容:大島教授(神戸親和女子大)による研修会、学生間交流(顔合わせ) 参加者:17名(内、尚綱2名、大学コンソーシアムひょうご神戸8名ほか) ■2回目 日 時:2020年7月23日(木) 内 容:大西教授(神戸女子大学)による研修会、今後の活動に向けての打ち合わせ 参加者:17名(内、尚綱2名、大学コンソーシアムひょうご神戸8名ほか) ■3回目 日 時:2020年8月10日(月) 内 容:コンソーシアム事業OG、OBによる経験談 参加者:19名(内、尚綱4名、大学コンソーシアムひょうご神戸8名ほか) 【本活動】 【Ⅰ】8月29日(土) 内 容:①アイスブレイク、両学生スタッフによる活動紹介 ②バーチャル関上バスツアー動画の視聴 ③阪神淡路大震災についての講話(講師:ひょうごボランタリープラザ前所長代理 鬼本 英太郎) ④学生意見交換会「講話を聞いて感じたこと・考えたこと」 参加者:23名(内、尚綱3名、大学コンソーシアムひょうご神戸12名ほか) 【Ⅱ】8月30日(日) 内 容:①アイスブレイク ②学生間交流「新聞記事から学ぶ災害と防災」 ③「学生のボランティア経験談を聞こう!」 ④学生意見交換会「これからの災害に向けて、私たちができることは…」 ⑤振り返りとまとめ 参加者:25名(内、尚綱3名、大学コンソーシアムひょうご神戸13名ほか) 【合同事後学習会】 日 時:2020年9月8日(火) 内 容:合同振り返りミーティング 参加者:18名(内、尚綱3名、大学コンソーシアムひょうご神戸8名ほか)

学生による活動報告 兵庫県の大学生との合同オンラインボランティア学習会

「被災地への支援のあり方を考える」～コロナ禍で私たちにできることは～

8月29日(土)～30日(日)の2日間、「大学コンソーシアムひょうご神戸」と尚絅学院大学ボランティアチームTASKIの学生合わせて25名で、オンライン合同ボランティア学習会を行いました。例年、宮城県名取市を訪れ本学と合同でボランティア活動を実施していましたが、新しい試みに挑戦し、コロナ禍においても私たちに何ができるか学び合い、意見交換をしました。

1日目:8月29日(土)

第一部:

- アイスブレイク
- 両学生スタッフによる活動紹介
- バーチャル関上バスツアー

第二部:

- 阪神淡路大震災についての講話
 - 学生意見交換会
- 「講話を聞いて感じたこと・考えたこと」



プログラム 1日目の 感想

- 震災の怖さを改めて感じた。今、自分には何ができるのかを考える機会になった。
- 一日目ということでどのようなイベントなのか、初めて会う方とのZoomでのやり取りが上手くいくのかとても緊張していましたが、東北の内容やボランティアについて等、普段の生活では学べないような内容ばかりでとても勉強になりました。
- 私たちが発信していることが、未来へとつながる活動になればいいなと思いました。(学生スタッフ)
- 鬼本さんの話を聞いて、ボランティアをするにあたり、自分の過去の経験を「今」の現場で押しつけないこと、という話が印象的でした。同じ「震災」「水害」でも場所によって状況はそれぞれ違う。前にうまくいったからといって、今同じように出来るかは分からない。被災された方に寄り添い、私たちは応援者・協力者になれるよう努める。そういう気持ちを忘れず活動していきたいと思いました。(学生スタッフ)

1日目は、まずは緊張ほぐしの自己紹介からスタート。この日までプログラムの準備を進めてきた学生スタッフと、今回参加した公募の学生は、この日が初対面!さらにはオンラインという非対面の形のため、お互い緊張感もあり、固い雰囲気をはぐすために出身や学習会の参加理由、お互いの呼び名など自己紹介をしました。

「バーチャル関上バスツアー」は、東日本大震災の被災地である宮城県名取市関上地区を実際に訪れ、その被害や被災地の変化を学ぶ「関上バスツアー」を“バーチャル”で体験できるように制作した動画です。参加学生のほとんどが初めて見る津波による被災地の被害や経時的変化、現地で暮らす被災された方の話、まちづくりが進む関上について理解を深めました。「現地を訪問した感覚になった」という嬉しい感想もありました。

第二部では、ひょうごボランタリープラザ前所長代理の鬼本英太郎さんより、「私たちの被災地支援とは～阪神、その後の災害から～」という題で講話をいただきました。私たち学生は経験したことのない26年前の阪神淡路大震災。当時の被害の状況や“ボランティア”という言葉が普及していなかった当時の市民の助け合いの活動、ボランティアは社会にとってどういう存在なのか、など貴重なお話を聞くことができました。

鬼本さんの話を受けて、それぞれが感じたこと考えたことをグループで意見交換し、全体で共有しました。「人とのつながりが大切」「市民同士で助け合える関係ってすごい」「阪神淡路大震災について知ることができてよかった」という内容や、「災害のことを忘れないようにする工夫ってなんだろう?」といった内容まで考えていたグループもあり、それぞれの考えが深まった時間となりました。

2日目:8月30日(日)

第一部:

- アイスブレイク
 - 学生間交流
- 「新聞記事から学ぶ災害と防災」

第二部:

- 学生スタッフの経験談を聞こう!
 - 学生意見交換会
- 「これからの災害に向けて、
私たちができることは…」
- 二日間のまとめ



プログラム 2日目の 感想

- 意見を交換し合う場面が多く、勉強になった。また、自分自身が楽しむボランティアをしようと思った。
- 災害について危機感を持つことができた。オンラインミーティングの有用性やコロナ禍での過ごし方という点でも学べたので、ボランティアに限らずこの時代の新しい生き方を模索することにも活かしていきたい。
- 今回のようにオンラインでの学習会の機会を増やしたいと思った。学生が講師として経験談や講話をするのも良いかもしれないと思った。(学生スタッフ)
- 今回何度も意見で出てきたように、伝えること、続けることはこの状況でも重要であるし、コロナ禍だからこそできる最大の活動であると思う。これからもこのような活動が、皆の考えるきっかけになればいいな、広めていければいいな、と思う。(学生スタッフ)

2日間を通して学んだことや新たに生まれた思い、考えは人それぞれですが、ボランティアチームTASKIとして得られた学びは「こういう状況下でも3つのつ(つなげる・つたえる・つづける)を意識した活動ができる」ということ。今まで通り現地での活動が出来ずどうすればいいんだろう?という悩みがあった私たちにとって、現地に行けなくても人と繋がり伝えられる活動はオンラインでも出来る!続けられるんだ!という気付きがありました。

オンライン合同学習会の2日目は、改めてグループごとの自己紹介からスタートしました。

自己紹介後はすぐに学生間交流として「新聞記事から学ぶ災害と防災」と題し、インターネット上の記事を読んだのディスカッションを行いました。このディスカッションでは、グループごとに別々の記事を読み、それぞれが感じたこと・疑問点を話し合い他のグループに共有しました。

ディスカッション テーマ

- コロナ禍での避難所運営～感染対策はどうする?
- 防災グッズ、準備してる?
- コロナ禍におけるボランティア
- ボランティア学生への支援金

ディスカッションを通じ、「防災の本質について話し合うことが出来た」「記事の内容をきっかけに意見や興味があること、経験、色々な話が展開されて面白かった」などの感想が寄せられました。

第二部では、「学生スタッフの経験談を聞こう!」ということで、大学コンソーシアムひょうご神戸と尚絅学院大学ボランティアチームTASKIの学生スタッフが一名ずつ、これまでやってきた活動や、ボランティアに対する個人的な思いについて参加学生に共有しました。同世代の学生からの等身大の経験談は、参加学生にとっても受け入れやすいものであったのではないかと思います。「経験者にしか分からない悩みやボランティアに対する考えを聞くことができ、勉強になった」という意見や、学生スタッフからも「自分のこれまでの活動を振り返ってみようと思った」という感想もありました。

最後に、2日間の学習会のまとめとして、グループごとにこれからの災害に向けて、私たち学生ができることは何かを話し合いました。特に現地での活動が出来ていない現在、「もしコロナに注意が必要な今災害があったらどうする?」という話や、「正直何をしたらいいかわからない…」という率直な感想もありました。

事業名	秋のバスツアー合同学習会(関上現地踏査)
実施日	令和2年10月4日、11月1日、22日(日)
実施場所	名取市関上地区
目的	①被災地(名取市関上)を視察し、語り部の方のお話を聞き、伝承館を視察することで「あの日あの時」と震災から9年半後の状況を知る。 ②大学生に求められる支援活動のあり方(地元・遠方/直後・長期)を考える。
内容	東日本大震災時に津波の被害が大きかった関上地区を訪問し、被害の様子や震災後の変化を直接目にし、現地の語り部さんのお話を聞く。また講師の方にまちやコミュニティの変化や今の様子をお聞きすることで、現在地域や住民の方が抱えている課題を知り、今後それぞれの専門的な学びや研究につなげる。
参加者	10月4日:7名/11月1日:17名/11月22日:20名 計:学生44人(すべて本学)



事業名	大学間連携 オンライン合同ボランティア活動(後期)
実施日	令和2年11月～令和3年3月
実施場所	オンライン実施
主催(共催)	大学コンソーシアムひょうご神戸(学生災害ボランティアネットワーク事業) 尚綱学院大学
目的	過去の災害について学び直しながら、学生間意見交換・活動企画を通し、大学生に求められる支援のあり方と被災地への関わりを考える。
内容	【定期ミーティングの実施】 ■日 時:2020年12月2日(水)、20日(日) 【合同学習会】 日 時:2020年12月13日(日) 内 容:東日本大震災の名取市関上についての講話 講 師:長沼俊幸さん(関上町内会長) 参加者:15名(内、尚綱7名、大学コンソーシアムひょうご神戸8名) 【合同活動】 ①クリスマスカード作成・配布 内 容:合同でクリスマスカードを作成し、名取市関上地区に配布する(配布数:400部) ②3月7日(日) 仙台防災未来フォーラムへの動画出展 ③3月9日(火) 関上中央集会所オンライン茶話会 参加者:16名(内、尚綱4名、大学コンソーシアムひょうご神戸8名 ほか)

「つづける・つなげる・つたえる311」プロジェクト

目的

2011年3月11日から10年を迎えるタイミングに合わせ、尚綱学院大学災害ボランティアステーション及びボランティアチームTASKIの活動のこれまでを振り返り発信し、学生や市民がこれからの防災・減災を考える機会とする。

プロジェクト1 3月6日(土) オンラインリレートークイベント「10年のTASKIリレー」実施

TASKIの卒業生3名と現役生の発表によるリレートーク。10年にわたって活動をしてきたそれぞれの経験やTASKIで学んだこと、震災やボランティアについて感じることを発表しました。



動画はこちらから



プロジェクト2 企画展示「10年のTASKIリレー展」実施

- 第1弾:大学ボランティアステーション前 1月25日(月)～2月12日(金)
- 第2弾:地域連携交流プラザ 3月3日(水)～3月31日(水)
- 第3弾:大学ホームページ特設ページ

特設ページはこちらから



プロジェクト3 災害復興支援マニュアル「災害復興支援はじめての一步」制作・発行

10年の活動を振り返り、大学として災害発生時やフェーズごとに变化する被災地にどのような支援ができるのか、他地域の災害支援等の一つの指標となるよう作成しました。



プロジェクト4 仙台防災未来フォーラム2021 動画発表・ポスター展示出展

「兵庫⇄宮城 被災地のリレー

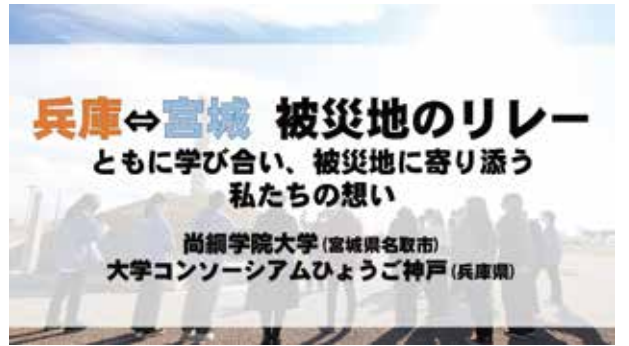
ともに学び合い、被災地に寄り添う私たちの想い」

震災直後から名取市関上地区の被災者支援を継続して行ってきた尚綱学院大学と大学コンソーシアムひょうご神戸。被災地に寄り添い、互いに学び合い、相互を訪問しながら連携して実施してきた活動やその積み重ねによる支援の広がり、これらをとおして得られた学生の学びや想いについて、合同で発表しました。

- 共催:大学コンソーシアムひょうご神戸
(<http://www.consortium-hyogo.jp/>)



動画はこちらから



コロナ禍でも 「つなげる」 「つづける」 「つたえる」

令和2年度は、コロナウィルス感染症による影響により
これまで継続して実施してきた住民さんとのお茶会などの交流会が
できませんでした。
このような中で交流を継続するため、「**お手紙プロジェクト**」を実施しました。
作成した“お手紙”は町内会や地域支援団体等の協力をいただき、
住民の皆さんにお配りしました。

令和2年7月公開 バーチャル 関上バスツアー 動画制作

東日本大震災時に津波の被害が大きかった関上地区を
バーチャルで訪問できるよう動画を作成し、被災地の今の様子や、
当時と震災後の変化を伝えました。
学生がナレーションを務め、コロナ禍においても被災地について
伝える工夫をしています。動画で伝えることにより、被災地を訪問できない
県内外の大学生や、大学に入学した新入生にも被災地の様子を
伝えることができるようになりました。



5月

緊急事態宣言による外出不可などの状況が続いていましたが、リモートで作成。1年前の
関上地区まちづくりイベントの思い出の写
真を添えました。

お手紙を一部ご紹介します

- 早く関上のみなさんに会いに行きたいです！
- 今は堪えて乗り越えましょう！
- 力を合わせて共に乗り切りましょう！
- 今は、それぞれができることをみんなでやりましょう！



11月

名取市サポートセンターどっと.なとりさんが実施している「名取復興文化祭」(2020
年は動画上映会のみ)にてお配りしました。
新メンバーの集合写真や、これまでの復興
文化祭の写真パネルを掲載しました。

お手紙を一部ご紹介します

- 関上のまちを通じて、たくさんの人達と繋がることができました。笑顔と元気とおいしい物がたくさんあふれる素敵
なまち。これからもいっぱい遊びに行きます！



12月

合同で活動している「大学コンソーシアムひょう
ご神戸」の宮城チームの学生とオンライン
で打ち合わせ、Zoomで写真を撮影しました。
現地に行くことができない中ではありますが、
被災地への想いやメッセージを届けました。

お手紙を一部ご紹介します

- また神戸から関上に行きたいです！その時までお元気で！
- 大変な状況ではありますがお互い健康に気を付けて頑張りましょう！



目的

- ①被災地(名取市関上)を直接訪問する代わりに、動画を通じてバーチャルで訪問し、講師の方のお話を聞くことで「あの日あの時」と震災からの変化や今の状況を知る。
- ②動画を通じて被災地の震災直後と現在の様子を比較し、復興はどのように進んでいるのかを知る。

#1 ボランティアチームTASKIの紹介&名取駅～関上までの様子

震災以降、名取市内の仮設住宅等でボランティア活動を行ってきた尚絅学院大学ボランティアチームTASKIの活動
や、名取駅から関上地区までの様子について学生によるガ
イドで案内。

https://www.youtube.com/watch?v=bss_svdGC6Q

- ナレーション: ボランティアチームTASKI
- 画像提供: 一般社団法人東北地域づくり協会



動画はこちらから

#2 東日本大震災のあの日あの時、そして今

名取市関上の被災状況と、震災から9年が経過した被災地
の今の様子について講師の長沼俊幸さんによるガイドで
案内。

<https://www.youtube.com/watch?v=MmkwbvFz63U&t=329s>

- 撮影時期: 2020年5月
- ナレーション: ボランティアチームTASKI
- 講師: 長沼 俊幸さん(関上中央町内会長)



動画はこちらから

#3 進んでいくまちづくり ～復興ってなんだろう～

2019年5月に行われた「関上地区まちづくり」の様子と、そ
から1年でまちづくりがどのように進んだのかを紹介。またこ
れまで県内外の学生と共に行ってきた意見交換の様子を通
し、今、そしてこれから大学生にできることは何かを考える。

<https://www.youtube.com/watch?v=C3rpE09NE7s>

- ナレーション: ボランティアチームTASKI
- 画像提供: 一般社団法人東北地域づくり協会



動画はこちらから

ダイジェスト版

<https://www.youtube.com/watch?v=jy3Aq4N46Og&t=585s>



動画はこちらから

ボランティアチームTASKIの活動の移り変わり

—2011～2019—

東日本大震災から8年以上が経過した今も被災地での活動を継続しているTASKI。
年を追うごとに内容はどう変化してきたのか、あらためて振り返ってみました。

2011年3月11日 東日本大震災発生

とにかくできることを

学生自らが被災地へ赴き「名取市災害ボランティアセンター」のスタッフとして活動開始。閉所される8月まで支援活動を行なう。その後、名取市内の仮設住宅にて活動を行なう。

当時の学生の「とにかく笑顔を取り戻したい」という強い思いから、「名取市災害ボランティアセンター」のスタッフとして被災地に関わり、その後避難所から仮設住宅に移られた皆さんの日常を取り戻すための支援活動を行いました。

出所：東日本大震災アーカイブ宮城(名取市) 提供者：名取市

ボランティアチームTASKIが誕生し、名取市内の仮設住宅にて、学生主体のイベントを行なうようになりました。当時は愛島東部仮設(関上で被災した方の仮設住宅)、植松入生仮設(様々な地域から来た方の仮設住宅)でのイベントが多く、カラオケ、体操、映画上映会、住民の方と食事を作るなど、様々なイベントを行ないました。また、学生は学都仙台コンソーシアムの「復興大学」という講座に参加するなど震災を学ぶ講座にも参加しました。



なんとか元気になってほしい!

学生ボランティアチームTASKI誕生!
名取市内の仮設住宅や集会所での体操や歌、学生主催のイベント活動(クリスマス、ひな祭りなど)で交流し、楽しい時間をつくるお手伝い。

2012

2013

一人にならないで!

仮設住宅支援の継続。おしるこづくり、書初め、焼き芋イベントなどの活動に加えて、畑作業、花壇作りなどを行なう。

一人で閉じこもらずに、集会所や畑などに顔を出してほしいという思いで、短時間でも回数を重ねた訪問で交流を続けました。



笑顔になってほしい!

学生主催のイベント活動だけではなく、仮設自治会の祭り支援など、より“支える”を意識した活動を実施。集会所でサークルができたり、仲良しグループができたりと住民さんたち自身がダンスや歌を楽しむなど主体的に活動することが増え、それを「お手伝いする」、「支える」という役割へと徐々に変化。

2014

このまま同じ活動を続けてもいいか立ち止まった時期もありましたが、住民さんに寄り添った仮設住宅での支援活動を継続しました。



少しずつ仮設住宅を出る住民さんが増えたり、次の住まいの話が出てくるなど、これからを考えるようになりました。仮設住宅を出た後の夢や不安に寄り添いつつ、



支援の形も変化し始められました。

夢を力に!

ひとつひとつの仮設住宅への支援に加えて、仮設住宅間交流の場を設定するなど、仮設住宅を出た後の新しいふるさと、これからのコミュニティ形成への支援活動を実施。

2015

新しいふるさとへ...

仮設住宅から復興公営住宅等へと住民さんの住環境の変化に伴い、被災地の課題も変化。改めて“寄り添い”の大切さをチームで再確認し、長期的視野に立った支援について考えるように。

新しいふるさとへ向け、カラオケ・演芸大会などのイベントを通して仮設間交流でのコミュニティ形成への支援活動を実施。住民さんが仮設住宅へ引っ越すにあたって“寄り添い”の大切さをチームで再確認。住環境の変化にともなう被災地の課題に取り組みました。



イベントを通しての直接的な被災地支援は少なくなりましたが、他大学と協力して、共に被災地を訪問したり、「復興とは何か」、それぞれの考えを共有しました。



**やっぱり
つなげる つたえる つづける**

仮設住宅の自治会や他の支援者の方々と協働しながら、住民の皆さんの“自らの復興”を支援。一方で次世代に震災を伝えるための学生の学び直しや、さらなる他大学の活動サポートも行なう。

2017

2018

復興ってなんだべ?

これまでの“寄り添い”支援を継続しながら、関上の新しいまちづくりを応援。住民交流会などに参加し、新しい団地のコミュニティづくりのお手伝いを行なう。

これまでの活動経験を活かし、次世代や他の地域についていく活動も継続して行ないました。さらに神戸を訪問し、阪神淡路大震災の経験について知るなど他県の災害や経験、教訓、課題にも目を向け、自分たちの今後の活動について考えました。



新しい町づくりが進み始めた関上で住民さんと共に活動することで、改めて“寄り添い”を続けることの大切さを実感しています。現在の生活に不安を感じる住民さんも少なくはありませんが、「住民さん自身が前に進んでいく」ことをサポートしていきます。



今の関上見てけさいん!

町内会が発足し、住民さん主催のイベントが行なわれるようになり、5月には地域と行政・企業・学校などが連携した“関上地区まちびらき”が開催された。住民さんに寄り添いながら被災地の今の姿を知り、伝えていく活動を継続している。

2019



ボランティアチームTASKI2020年度活動報告

東日本大震災から10年…被災地のフェーズの変化とともに
見えてきた状況から、わたしたちにできることは何か。



2011年3月11日に発生した東日本大震災により、宮城県名取市関上は大きな被害を受けました。震災前にはたくさんの家並みや商店街、穏やかな海と共に暮らすたくさんの人々の営みがありました。あの日を境に環境が一変した住民の皆さんの暮らしは、この10年という時間の中で、避難所から仮設住宅へ、そして仮設住宅から復興公営住宅や再建した新しい住宅へと変化してきました。

2019年5月には名取市で「関上地区まちびらき」が行われ、住民の皆さんの新しい住まいでの生活や、ゼロからのコミュニティづくりがスタート。尚絅学院大学の学生たちもそのような場に参加し、つなぐお手伝いを続けています。住民さん同士がお互いの顔や名前を覚えはじめ、子育て世代や関上以外の土地から移り住んで来た方も徐々に増えてくるなど、つながりの輪が生まれつつあります。

しかしながら2020年度はコロナウイルス感染症の拡大による様々な影響を受け、イベントの開催やコミュニティの場づくりが難しくなりました。尚絅学院大学を始め、これまで交流のあった県内外の大学生は関上に直接赴くことができません。高齢者率も高く、復興公営住宅に移っ

た際にも、家から出なくなってしまった方、体調を崩された方もいらっしゃると思いますが、自粛が続く中で同じような状況が起こっているのでは、という話も聞こえてきます。さらに、東日本大震災から10年が経過することを機に、「もう被災地は復興したのではないか」、「いつまで支援を続けるべきか」という声も聞かれるようになりました。

本当に、もう被災地の復興は完了したのでしょうか。支援や関わりは必要ないのでしょうか。

兵庫県神戸市で26年前の阪神淡路大震災を経験した住民の方に聞いた、「まだ神戸が復興したとは思えない」、「南海トラフ巨大地震への備えをしている」という言葉。東日本大震災の後に起こった、熊本や北海道での地震や、九州地方や長野県、そして宮城県でも発生した豪雨・台風等による水害。

現在の大学生は、震災当時小学生ということもあり、ゼロから東日本大震災について知り、学び、伝え続ける重要性も感じるようになりました。

このような状況が見えてきた中で、私たち大学生にできることは何かを考え、これからも活動を続けていきます。

—コロナ禍でも 寄り添い、つなげる つたえる つづける—

東日本大震災からついに10年。宮城県名取市関上地区では、2019年5月に「まちびらきイベント」が行われ、復興公営住宅や新しい家での暮らし、町内会等を中心としたコミュニティづくりが順調に進みつつありました。

しかしながら新型コロナウイルス感染症拡大による様々な影響により、住民さんの「集い」や「交流」は中止が相次ぎ、大学生の直接的な支援、交流は自粛を余儀なくされました。

被災地にある大学として、これまで続けてきた「寄り添い」を続けるには、震災や支援活動の教訓・経験を伝えるには、直接交流できない状況でこれからもつながっていくためにはどうすればよいのか。

困難な状況の中でも3つの「つ」に立ち返り、住民さんとの交流や、他大学の皆さんとの学びやつながりを止めずに、共に力を合わせ、学びながら、次につながる活動を行っています。



これまでのような活動や交流は、コロナウイルス感染症による影響で**中止・変更**に…

この状況の中でできることは何かを模索し、**遠隔での活動や学び合いをつづける**



私たちにできること、次へと活かせることは…？復興ってなんだろう？

活動報告は
こちら！

尚絅学院大学HP <http://www.shokei.jp/> **【311プロジェクト特設サイト展開中！】**

Facebook
<https://www.facebook.com/shokei.volunteer.station/>

Twitter アカウント
https://twitter.com/TASKI_SHOKEI